

沖縄県立埋蔵文化財センター企画展

発掘調査 速報展 2011



7月20日(水)～8月21日(日)

沖縄県立埋蔵文化財センター

もくじ

| | |
|--------------------|----|
| ごあいさつ | 1 |
| 平成 22 年度調査実施箇所 | 2 |
| 円覚寺跡 | 4 |
| 中城御殿跡 | 6 |
| 首里城跡『淑順門西地区・奉神門地区』 | 8 |
| 喜田盛遺跡 | 10 |
| 県内遺跡詳細分布調査（渡嘉敷村） | 12 |
| 白保竿根田原洞穴遺跡 | 14 |
| 海軍病院建設予定地内発掘調査 | 16 |
| 基地内文化財分布調査 | 18 |
| 戦争遺跡詳細確認調査 | 20 |
| 沖縄歴史年表 | 22 |
| 発掘調査のきっかけ（契機）とは | 23 |
| 平成 23 年度発掘調査予定一覧 | |

凡例

1. 本書は、沖縄県立埋蔵文化財センター企画展「発掘調査速報展 2011」を補完するものとして編集した。
2. 許可なく本書の複製および転載、複写を禁ずる。

ごあいさつ

沖縄県内には貝塚、グスク、集落跡や近世古墓群など約2,500箇所の遺跡が確認されています。沖縄県立埋蔵文化財センターでは、先人が残したこれらの埋蔵文化財の発掘調査を行い、考古学的見地から検証した成果を沖縄の歴史・文化の研究に役立てています。

通常、発掘調査開始から出土品を整理し報告書を刊行するまで数年を要することから、前年度の発掘調査で得られた最新の情報をいち早く公開するため、「発掘調査速報展」を毎年開催しております。

今回の「発掘調査速報展2011」では、平成22年度に行った沖縄本島・離島を含む6地区の遺跡発掘調査と2地区的遺跡分布調査および1地区的遺跡確認調査の概要と主な成果について、出土遺物や写真パネル等で紹介しております。

首里城跡は昭和59年度より発掘調査が行われており、平成22年度は淑順門西地区と奉神門地区において実施されました。特に、淑順門西地区からは、13世紀後半のものと思われる古い土層が確認され、首里城の変遷を知る手がかりとして貴重な発見となりました。

また、新石垣空港建設に伴う白保竿根田原洞穴発掘調査で出土した人骨そのものに年代測定を行った結果、約2万年前のものと判明しました。これは我が国でも最も古い時期に該当するもので、国内外から注目されています。現在その詳細を明らかにすべく、調査研究が進められています。

この速報展を通じて、多くの方々が当センターの発掘調査と沖縄県の埋蔵文化財について親しみを持ち、その価値や重要性について理解を深める機会となれば幸いです。

平成23年7月20日

沖縄県立埋蔵文化財センター

所長 大城 慧

平成 22 年度調査実施箇所

沖縄本島

海軍病院建設予定地内
発掘調査



基地内文化財
分布調査



中城御殿跡



円覚寺跡



渡嘉敷島
(県内遺跡)



首里城跡
「奉神門地区」



首里城跡
「淑順門西地区」



八重山諸島



戦争遺跡詳細確認調査



西表島



石垣島



宮古島



本島中南部

平成 22 年度発掘調査一覧

| 事業名 | 所在地 | 時代区分 |
|-------------------|-----------------------|------------------|
| 円覚寺跡発掘調査 | 那覇市首里当蔵町 2 丁目 1 番 | グスク時代～近代 |
| 首里城公園（中城御殿跡）発掘調査 | 那覇市首里大中町 1 丁目 1 ~ 3 番 | 近世～現代 |
| 首里城跡（淑順門・奉神門）発掘調査 | 那覇市首里当蔵町 3 丁目 1 番 | グスク時代～近世・近代 |
| 喜田盛遺跡発掘調査 | 石垣市新川 | グスク時代～近世・近代 |
| 県内遺跡詳細分布調査 | 渡嘉敷村 | 先史時代～近代 |
| 白保竿根田原洞穴発掘調査 | 石垣市字白保竿根田原ほか | 後期更新世～グスク時代 |
| 海軍病院建設予定地内発掘調査 | 宜野湾市普天間(キャンプ瑞慶覧内) | 縄文時代、グスク時代、近世～近代 |
| 基地内文化財分布調査 | 宜野湾市（普天間飛行場内） | 近世・近代 |
| 戦争遺跡詳細確認調査 | 沖縄県全域 | 1941 年～ 1945 年 |

えんかくじあと 円覚寺跡

事業名：円覚寺跡発掘調査

所在地：那覇市首里当蔵町2丁目1番

時代：グスク時代～近代

調査期間：2010（H22）年7月1日～2010（H22）年9月8日

調査内容：円覚寺跡は1492年に建設が始まり、約3年の歳月を経て完成した臨済宗の總本山で、尚真王（第二尚氏王統第三代）が父親である尚円王の御靈を祀るために建立したと伝えられる寺院です。第二尚氏の菩提寺でもありました。現在は国の史跡に指定されています。

円覚寺跡の復元整備事業に伴い、平成9年から平成13年までの5年間、遺構確認調査が行われました。その調査成果などを基に、その翌年からは円覚寺跡の外周を囲む石牆の復元整備を実施しています。

平成22年度の調査は、平成19年度に検出された右掖門から内部へと続く石敷きの道と門との関係把握と、三門前の階段遺構の構造確認及び南側石牆の西側延長部分の根石確認を目的として、それぞれ「右掖門地区」、「三門地区」、「南側石牆地区」と称して調査を行いました。

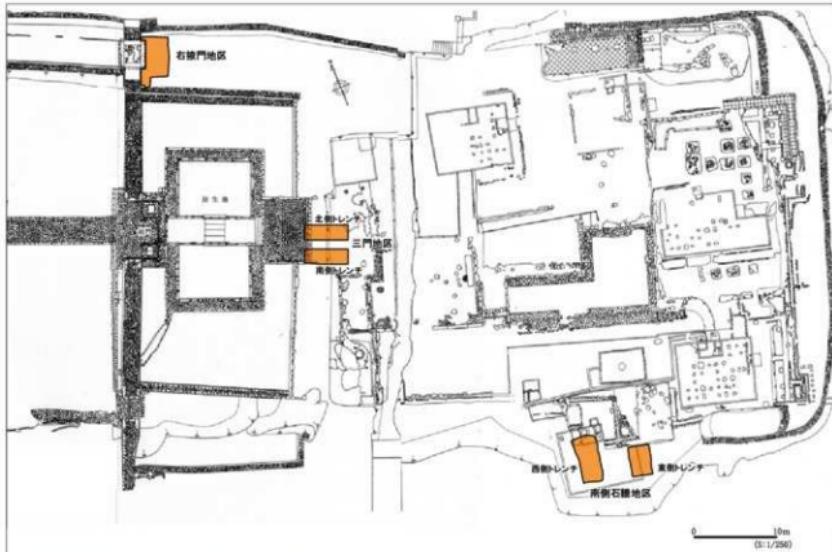
調査の結果、右掖門地区では門の根石の一部と、門から内部へと続く石敷きの道が見つかりました。さらに、5～20cm大の石が石敷きの下にもぐるようにならんで集中している状況が確認されました。これは排水を意識したものと考えられます。三門地区では、琉球政府時代に復元された階段の下より、石積みや階段の基礎と考えられる石などが見つかりました。南側石牆地区では、石牆の一部と考えられる石積みが検出された他、方形状の遺構も見つかりました。この方形状の遺構は円覚寺跡の内部施設と考えられますが、詳細については今後の調査によって明らかになっていくでしょう。



写真1 右掖門地区の遺構・東側から



写真2 石牆と方形状の遺構
(南側石牆地区・西側トレンチ) 北側から



平成 22 年度 発掘調査実施箇所



写真 3 検出された遺構（三門地区・南側トレンチ）西側から



写真 4 写真 3 と同一の遺構
階段の基礎と思われる切石
(三門地区・南側トレンチ) 北側から

なかぐすく う どうんあと
中城御殿跡

事業名：首里城公園発掘調査

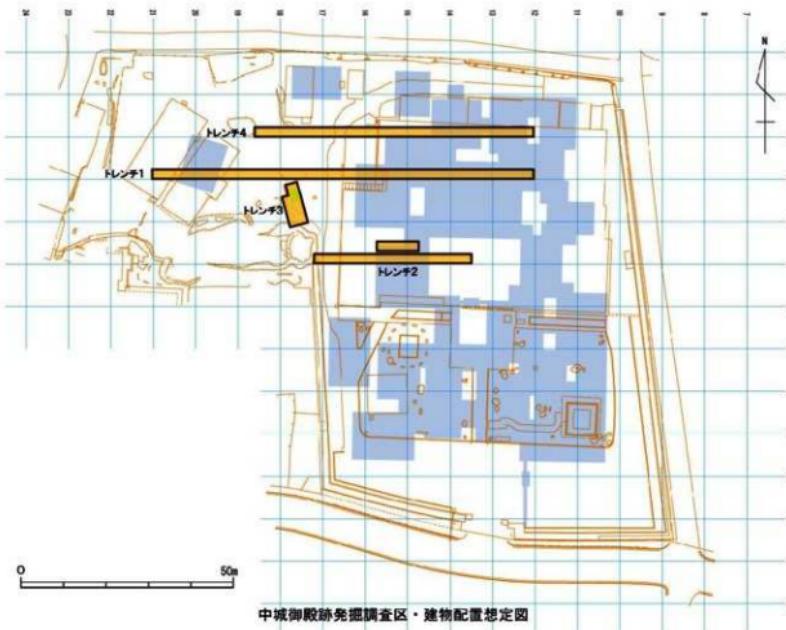
所在地：那覇市首里大中町1丁目1～3番

時代：近世～現代

調査期間：2010（H 22）年8月3日～2011（H 23）年2月28日

調査内容：平成22年度の調査は、遺構の残存状況や範囲を確認する目的で、敷地内の御内原エリア及び上之御殿エリアの一角において4本のトレンチを設け、約400m²の面積で行いました。御内原エリアでは新御殿、御寝殿、寄満や、これらの建物に付随する遺構を確認しました。また、この御内原と上之御殿の境界にあたる石積みや出入り口となる石門・石階段のほか、拝所として使用していた大岩の周辺からは、拝所の遺構の可能性がある石列や、その下部からは中城御殿以前のものと思われる石壘や石積みが検出されています。さらにこれらの遺構に伴い、近世～近代にかけての琉球及び国産の陶磁器が多数得られています。

なお、中城御殿跡の下層からは、中城御殿移転前に存在した生活層が確認されており、そこから中世に属する中国産陶磁器が若干得られています。これにより、中城御殿の遺構は戦前・戦後に大きく改変を受けたことにより、一部で破壊されているものの、良好な状態で残されていることがわかりました。





トレンチ 1 石組み遺構



トレンチ 2 遺構検出状況



トレンチ 3 階段遺構検出状況



トレンチ 4 遺構検出状況

しゅりじょうあと しゅくじゅんもんにしちく ほうしんもんちく 首里城跡『淑順門西地区・奉神門地区』

事業名：首里城跡発掘調査

所在地：那覇市首里当蔵町3丁目1番

時代：グスク時代～近世・近代

調査期間：2010（H22）年9月1日～2011（H23）年2月25日

調査内容：首里城跡発掘調査は、18世紀ごろから戦前まであった姿を復元するために、必要な情報を得るために行っています。今年度は、淑順門西地区と奉神門地区において実施しました。

淑順門西地区では、上半部は沖縄戦によって破壊されておりましたが、戦前のころまであったと思われる城壁を確認しております。この城壁は、現在復元されている淑順門につながるもので、正殿の近くまで延びていくようです。この城壁より下層を調査すると、15世紀中葉の土層より城壁は新しいことを確認し、このころに造られたことが分かりました。この土層からは、多くの炭とともに獣・魚骨・貝殻や陶磁器片、刀の鍔などが見つかっており、当時の人々が捨てたゴミや火災にあったものを廃棄したと考えられます。

この土層より古い層としては、15世紀前半に火災を受けた可能性がある炭層も確認され、多くの瓦（大和系）が出土しており、この時期に周辺に建物があった可能性が考えられます。さらにその下層は14世紀後半の造成層を確認し、最も古い層は13世紀後半～14世紀で、首里城跡で最も古い時期と考えられます。

このように、今回の調査では13世紀後半の土層も確認でき、古い時期から戦前に至るまで幾度もの変遷が経てきたことが分かります。

奉神門地区は、昭和63年から平成元年にかけて既に発掘調査が行われ、復元整備がなされています。今回、過去の調査で確認された石壙が敷かれた地面に大甕が埋められた遺構を復元するために、再調査を行いました。過去の調査では、甕が確認された時点で調査を終了していたので、その甕の大きさや形がどのように埋められたかなどの詳細は分かりませんでした。

調査により、この甕は石壙が敷かれた18世紀頃に共に埋められたことが分かりました。また、この甕は高さ90cm近くある非常に大きな甕であったことも分かりました。この埋甕ですが、骨や貝などは出土しなかったため、ゴミ捨て場ではなく、防火用の水ガメなどであった可能性が考えられます。



淑順門西地区全景



13世紀後半～15世紀中葉にかけて約1.5m堆積した土



石積の切り合い



復元された淑順門と今回確認された石積



復元された埋甕（奥は奉神門）



奉神門地区埋甕（掘削前）



奉神門地区埋甕（掘削後）

喜田盛遺跡

事業名：喜田盛遺跡発掘調査

所在地：石垣市新川

時代：中森期～近世・近代

調査期間：2010（H22）年7月7日～2010（H22）年8月7日

調査内容： 調査地は現在の市街地にあたり、道路工事（県道真栄里新川線街路改良工事）に伴って、その影響を受ける範囲について調査を行いました。この遺跡では、平成12・13年度にも石垣市教育委員会による発掘調査が行われています。

今回の調査では、中森期（主に15～17世紀）の建物跡と考えられる柱穴と土坑墓3基を確認することが出来ました。柱穴は、具体的な建物のプランとしてはおさえることが出来ませんでしたが、深さ30cm以上のものが多くあり、柱を据えたものと思われます。また遺物としては、大半が地元で作った土器ですが、中国産やタイ産陶磁器も出土しました。

土坑墓は、地面を掘って穴を設けて、木棺などを使わないのでそのまま埋葬し、土を被せて埋葬したようです。

土坑墓1は、成年（30歳代）の女性が足を大きく折り曲げた形、いわゆる屈葬という姿勢で埋葬されていました。この骨はほぼ全身そろっていますが、膝蓋骨だけは砕かれたようになくなっています。足を折り曲げるとき叩き潰した可能性も考えられます。

土坑墓2は、乳児がこれも屈葬という姿勢により、埋葬されていました。こちらは、体の側面に頭ぐらいの石を数個置いていたようです。土坑墓3は、残念ながら一部骨を取り上げた後に気づいてしまったのですが、幼児が埋葬されていたようです。

この他、近世の陶磁器（中国・沖縄・本土産）のものも見つかっておりますが、明確な遺構は確認できませんでした。その理由としては、この地域は明和（1771年）の大津波で被害を受けた地域であり、その影響かもしれません。

近代には、今と同じような宅地であったようで、水溜やゴミ捨て場などの可能性がある土を貼った穴が見つかっています。また、多くの陶磁器も出土しており、台湾産と考えられる陶器が注目されます。

このように、この遺跡は15～17世紀を中心とした集落跡で、建物跡に近接して墓も営まれることが特徴ですが、この遺跡がある現在の市街地周辺では同様の遺跡が集中しており、今も昔も人々が住むのに適したところだったようです。それは、ここが海岸に非常に近いところで貝や魚が得やすかったことと、さらに井戸も多くあり水源が豊かな場所だったからと考えられます。



貼土をした土坑（近代）



喜田盛遺跡全景（柱穴検出状況）



土坑墓2（乳児）



土坑墓1（女性）

けんない い せきしょうさいぶん ぶ ちょう さ 県内遺跡詳細分布調査（渡嘉敷村）

事業名：県内遺跡詳細分布調査

所在地：渡嘉敷村

時代：先史時代～近代

調査期間：2010（H22）6月6日～2010（H22）8月12日

調査内容： 観光立県を標榜する沖縄県ではリゾート開発などの観光に関係する大規模な開発事業がとくに離島地域を中心にして目立つようになってきました。このような開発に伴う土木工事の前に埋蔵文化財の調査を実施することが法律で義務付けられています。しかし、遺跡がどこに、どのように残っているのかといった基礎情報が無ければ、事前に埋蔵文化財の調査を行うことはできません。そこで遺跡の基礎情報を得るために分布調査を行うことになります。

沖縄県ではこれまで、県内市町村各地域の埋蔵文化財の分布状況を把握するための詳細分布調査を実施し、各種開発に対応するための基礎資料作りを行ってきました。しかし、慶良間諸島（渡嘉敷村、座間味村）並びに東村においては未だ分布調査が実施されていない空白地域となっていました。このことから平成22年度から平成27年度にかけて国庫補助事業で詳細分布調査を実施することになりました。

対象とするのは先史時代の貝塚や集落跡などから沖縄戦時に利用された戦争遺跡までで、昨年度は約2ヶ月の期間で渡嘉敷村内において実施しました。

分布調査では新たな事実が確認されましたが、とくに先史時代の遺跡を3ヵ所、そして戦争遺跡3ヵ所が新たに確認されたことが大きな成果として挙げることができます。また渡嘉敷島の最南端に位置する船越原遺跡では自然崩壊により遺跡が失われつつあることも確認することができました。このように詳細分布調査では渡嘉敷村内における遺跡の現状がかなり明らかになりました。



アリガ－遺跡（縄文時代）



リルカファ遺跡（縄文時代）



ジングスク（グスク時代）



東上原遺跡（集落跡・グスク時代）



イシッピー原古墓群（近世）



ヒーチヤマ（のろし台跡・近世）



渡嘉敷の住民避難壕（近代）



北山の陣地壕（近代）

しらほそねたばるどうけついせき 白保竿根田原洞穴遺跡

事業名：白保竿根田原洞穴遺跡発掘調査

所在地：石垣市盛山～白保

時代：後期更新世～グスク時代

調査期間：2010（H22）年8月1日～2010（H22）年12月1日

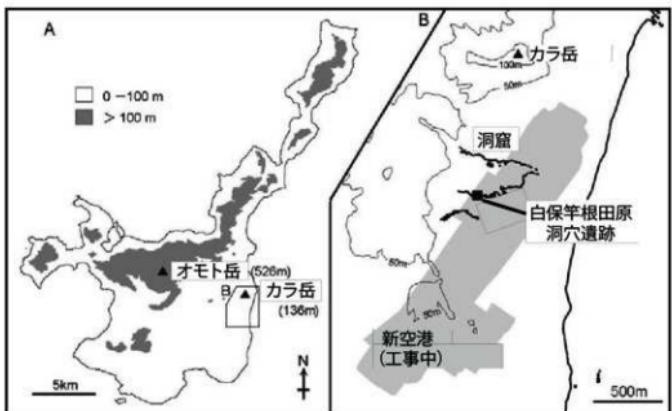
調査内容：白保竿根田原洞穴遺跡は、新石垣空港建設予定地内に所在し、石垣市盛山東牛^{とうじ}種子および白保竿根田原にまたがる長大な鍾乳洞の一画に形成された洞穴遺跡です。この洞穴の化石ホールと呼ばれる地点から採集された人骨3点について、人骨そのものからコラーゲンを抽出し、放射性炭素年代測定（AMS法）を実施した結果、後期更新世（旧石器時代）に遡る年代値が得られました。このことは、後期更新世の石垣島に人類が到達していたことを示す極めて重要な科学的証拠といえます。

沖縄県立埋蔵文化財センターでは、沖縄県立博物館・美術館の協力を得て、2010年8月～11月にかけて緊急発掘調査を実施しました。後期更新世の人類とその文化・環境の解明を目指した総合的な調査を実施するため、考古学・人類学・古生物学・地質学・洞穴学・地球科学等各分野の有識者からなる白保竿根田原洞穴総合発掘調査委員会も設置し、慎重かつ適正な調査に努めました。

発掘調査の結果、遺跡は更新世のある時期に、洞穴の一部が崩壊して形成された光の差し込む開口部及び陥没ドリーネ付近が利用されており、最終氷期最盛期から近現代に至るまで断続的に人類によって利用され、包含層が形成された複合遺跡であることがわかりました。

発掘調査によって、以下の成果が得られています。現在資料整理中であり、その全容は未だ明らかとなっていません。

- ① 近現代、スク時代、無土器期（約2000年前）、下田原期（約3500年前）、完新世初頭（約9000年前）、最終氷期最盛期（約12000年前）の各時期の包含層が層序的に確認されました。
- ② 八重山諸島で初となる下田原期の崖葬墓（人骨）や生活跡（炉跡・礫敷遺構・土器・食糧残滓等）が確認されました。これまで下田原期の遺跡は海岸付近の台地や砂丘で確認されていましたが、今回の調査によって、洞穴も利用していたことが明らかになりました。
- ③ 完新世初頭と考えられる層より、破碎されたと考えられるイノシシ骨や石器を伴う包含層が確認されました。
- ④ 完新世初頭から最終氷期最盛期と考えられる層より、複数体の人骨を包含する堆積層が少なくとも2枚確認されました。



遺跡 1



崖葬墓 (下田原期)



石器と炭化物集中 (無土器期)



人骨 1 検出状況 (完新世初頭～更新世)



石器、イノシシ骨検出 (完新世初頭)



フローテーション風景 (水洗)

かいぐんびょういんけんせつよていちないはっくつちょうさ 海軍病院建設予定地内発掘調査

事業名：海軍病院建設予定地内発掘調査

所在地：宜野湾市普天間（キャンプ瑞慶覧内）

時代：縄文時代、グスク時代、近世～近代

調査期間：2010（H22）年8月12日～2011（H23）年3月28日

調査内容：本事業は米軍基地内の施設建設に伴う緊急発掘調査です。今年度の調査では、縄文時代・グスク時代・近世～近代の3時期に相当する遺構や遺物が確認されました。

縄文時代に相当する遺構にはピットや土坑があります。特に土坑には直径1m・深さ2mを超える大きなものがみられ、どのように使用されたか興味深いところです。遺物は少量ながら土器や石器などが出土しています。

グスク時代に相当する遺構としてはピットが多数検出されています。ピットには中央に柱の跡と考えられる黒い土が残っているものがあり、これを手がかりに建物跡の想定プランを複数組むことができました。遺物は中国産白磁・徳之島産カムイヤキ・滑石製石鍋を模倣した土器などが出土していますが、量はそれほど多くありません。

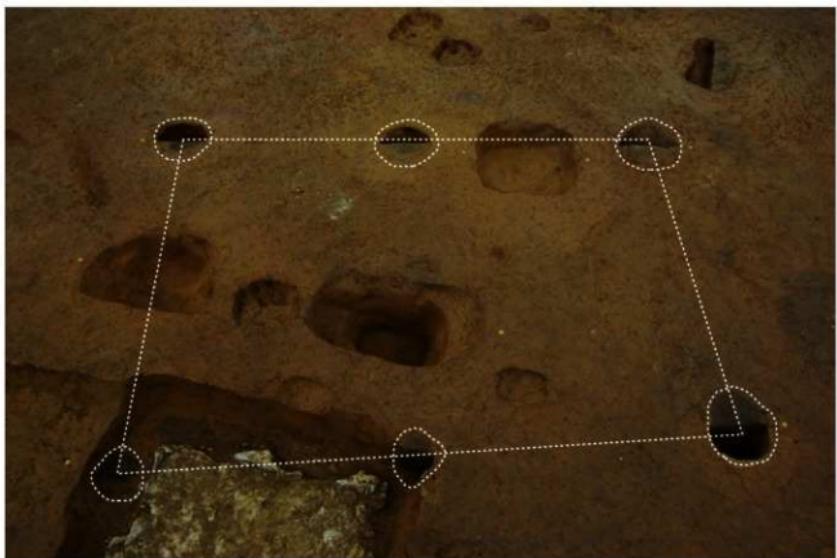
近世～近代に相当する時期は遺構・遺物ともに最も多く確認されています。遺構は土地を区画するように調査区を縦横断する溝のほか、ピット、土坑、方形に組まれた石積遺構、炉跡、井戸などが検出されました。遺物は中国産・日本産・沖縄産の陶磁器類を中心に、金属製品、石製品、ガラス製品、自然遺物など、往事の暮らしぶりがうかがえる多種多様な資料が出土しています。



土器出土状況



本土産陶磁器出土状況（VII地区）



掘立柱建物跡検出状況



完提状況・部分（VII地区）

き ち な いぶん か ざいぶん ぶ ちょう さ 基地内文化財分布調査

事業名：基地内文化財分布調査

所在地：宜野湾市大山

時代：近世・近代

調査期間：2010（H22）年12月1日～2011（H23）年3月28日

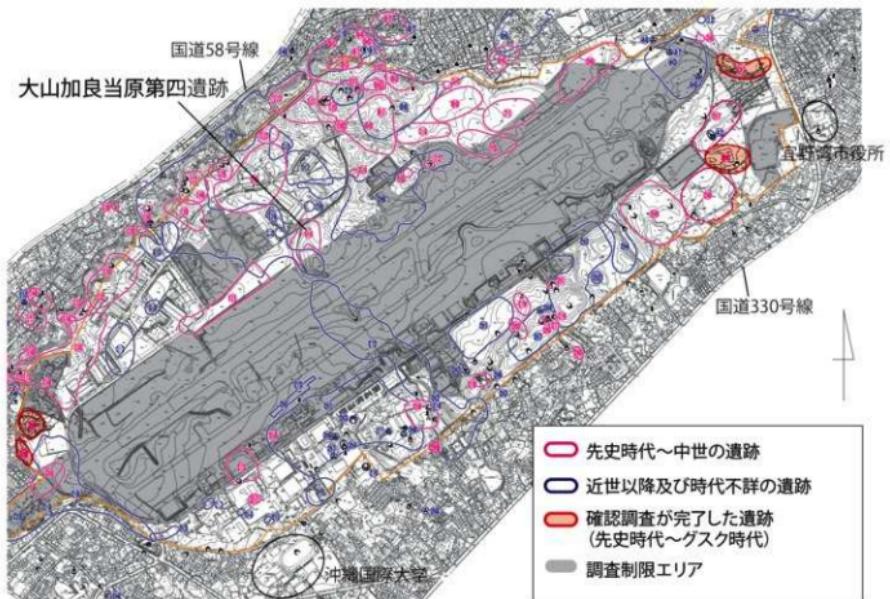
調査内容：この調査は、沖縄県内の米軍基地や自衛隊基地内にある遺跡（埋蔵文化財）の、所在、範囲、内容といった基礎的な情報を把握することを目的として、平成9年度から文化庁の補助を受けて実施しています。平成11年度から普天間飛行場内で調査を実施し、現在102箇所の遺跡の所在が確認されています。平成22年度は一昨年より引き続いて、西山加良當原第四遺跡大山加良當原第四遺跡の確認調査を行いました。先立つ試掘調査によって、この遺跡には大きく現代の表土層、戦後の造成土層、近世・近代の層、縄文時代の層の4つの時期の地層があることが分かっています。

調査の結果、近世・近代の層より溝状遺構が2条検出されました。また遺物は縄文時代の層以外の地層から、沖縄産の陶器片などが僅かに出土しました。このような状況からは、この場所が家々の並ぶ集落遺跡ではなく、畑などが分布する生産遺跡であることが改めて確認されました。その他、縄文時代の層には高低差が認められ、当時はあまり平坦な土地ではなかったことが分かってきました。

しかし立入手続きの遅れから調査期間が十分にとれず、縄文時代の層はあまり調査できずに次年度に持ち越しとなりました。上下の激しい地形が縄文人の土地利用とどのように関わるのか、普天間飛行場内の調査全体にも関わる興味深い課題です。



3 トレンチ発掘状況 北西から



大山加良当原第四遺跡の位置



溝状遺構の検出状況

戦争遺跡詳細確認調査

事業名：沖縄県戦争遺跡詳細確認調査

所在地：沖縄県全域

時代：1941～1945年

調査期間：2010（H22）年7月26日～2011（H23）年3月16日

調査内容：平成10年度から平成17年度まで実施した沖縄県戦争遺跡詳細分布調査では沖縄県内において979カ所もの戦争遺跡が確認されました。この成果を踏まえて平成22年度から残存状況が良好で歴史的に重要な戦争遺跡を選別し、詳細な遺構確認のための調査を行っていく方針の下、国庫補助事業による沖縄県戦争遺跡詳細確認調査事業を5ヶ年計画で行っています。

過去、太平洋戦争および沖縄戦において構築、利用された人工壕や自然壕、塹壕、そして桟橋跡や砲台跡といった構築物、兵舎跡や監視所跡といった建造物、更に忠魂碑や奉安殿といった国威高揚の石碑などが戦争遺跡の対象となります。それらを将来的には保存、公開、活用へ向けての基礎資料とすることを目的としています。

昨年度は3回の調査委員会と沖縄本島中部8カ所、南部で9カ所、宮古島16カ所、石垣島15カ所、西表島で3カ所と計51カ所の戦争遺跡の現状把握を行いました。また現状把握に止まらず人工壕や砲台跡などが新たに確認された戦争遺跡もありました。

戦争体験者が少なくなってきた現今、戦争遺跡は太平洋戦争、沖縄戦を知る上で更にその重要性が高まっていくと思われます。

【宮古島】



狩俣ヌーザランミ特攻艇秘匿壕
(宮古島市)



宮古南静園の避難壕・ヌスドゥガマ（宮古島市）

【沖縄本島】



伊計島の大砲陣地跡（うるま市）



平敷屋の砲台跡（うるま市）



首里第32軍司令部壕周辺の建造物



首里第32軍司令部壕第3坑口内部

【八重山諸島】



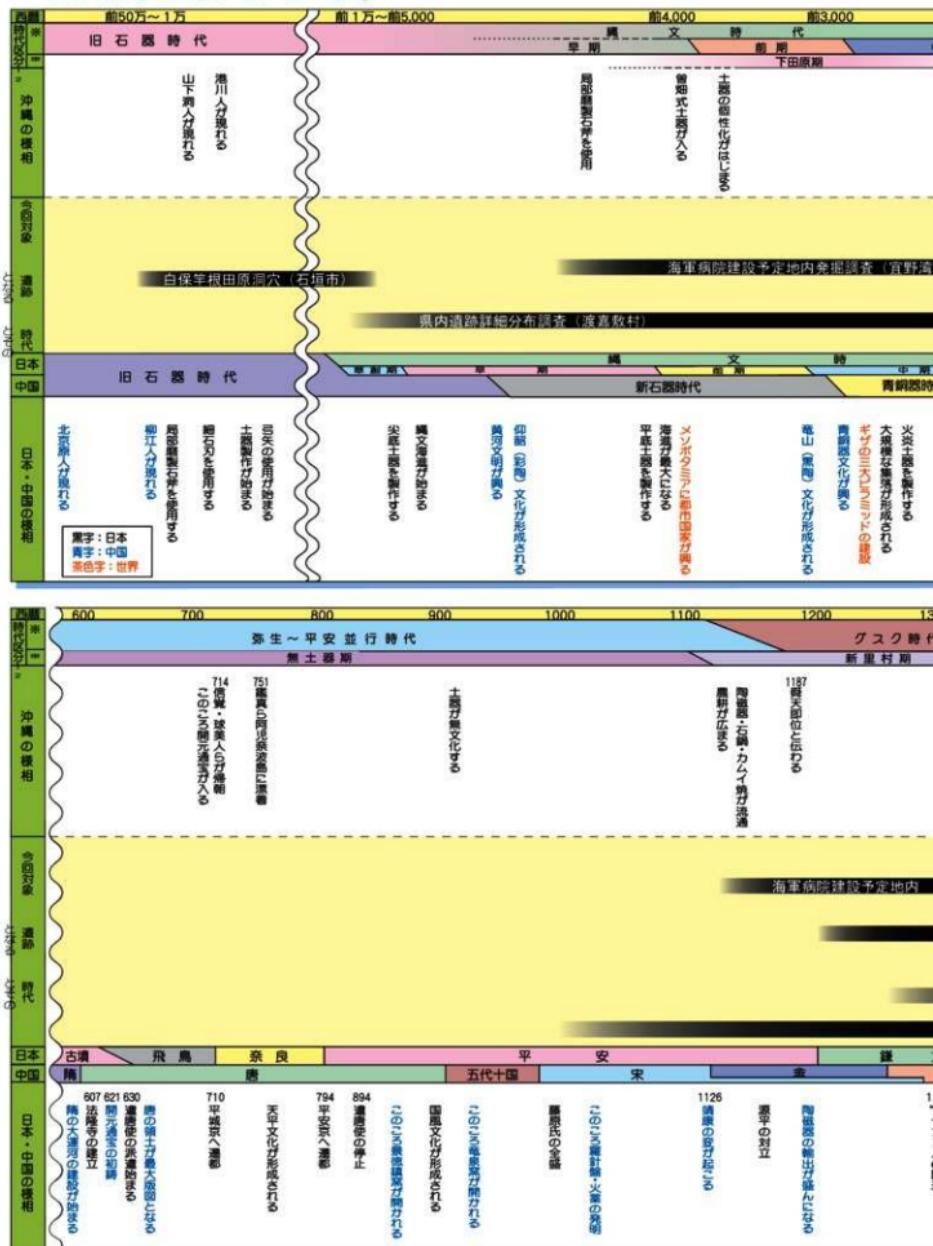
川平の特攻船秘匿壕群（石垣市）

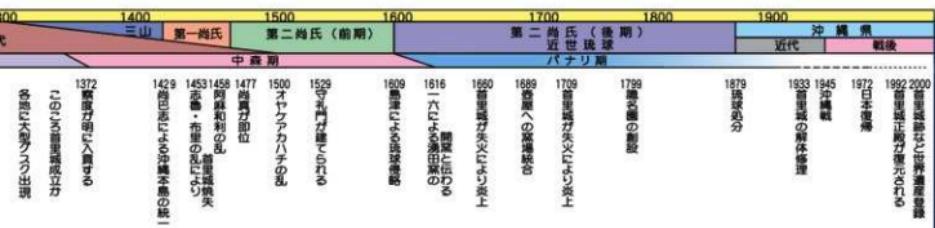
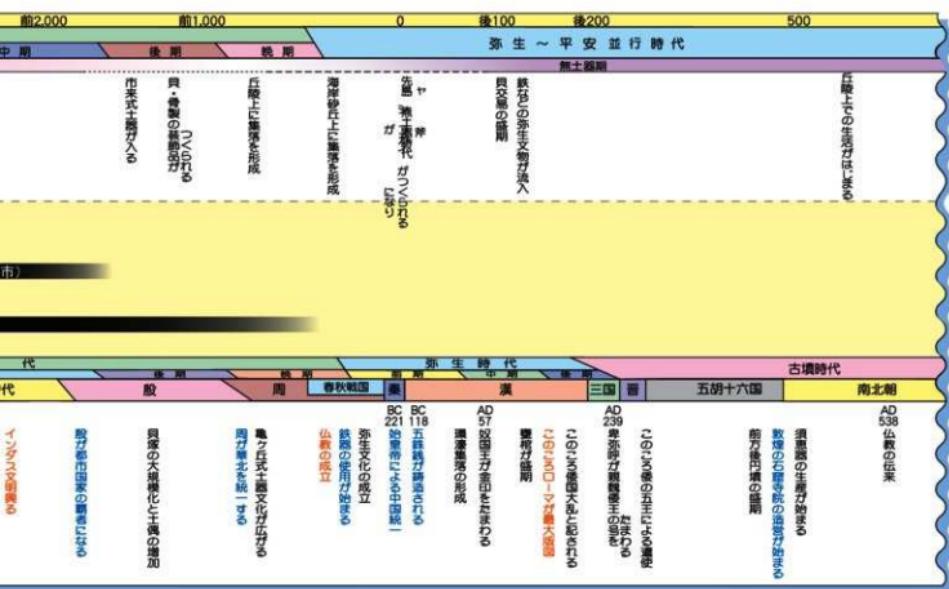


船浮要塞第1管区砲台跡（竹富町 西表島）

沖縄歴史年表

*1……沖縄本島時代区分 *2……八重山諸島時代区分





発掘調査のきっかけ（契機）とは

一概に発掘調査といつても、そのきっかけ（契機）や原因がいくつかあります。そもそも、遺跡などの発掘調査は考古学的な手法を用いておこなうわけですが、それによって過去の人たちの生活や行動を復元し、当時の歴史や文化を明らかにしていくことを目的にしています。

発掘調査は、大きく「学術調査」と「行政調査」のふたつに分けることができます。

「学術調査」とは、大学の考古学研究室などの研究機関がおこなう発掘調査で、学術的な目的意識（研究テーマ）を持って取り組されます。

一方、「行政調査」とは、行政機関（教育委員会など）がおこなう発掘調査で、その契機や原因によって大きく3つに分ることができます。

まず、遺跡（埋蔵文化財）の適切な保護を目的とし、その所在・内容等を把握するための調査があります。

次に、保存・活用のための発掘調査があります。重要な遺跡の評価をおこなうための調査や、史跡指定された遺跡の整備・活用のために行われる調査も含まれます。

最後に、記録保存のための調査があります。この調査は、開発側との調整によって、現地保存ができなくなった遺跡について、開発に先立ち発掘調査をおこなうものです。この調査によって得られた記録類は、消滅した遺跡に代わって、遺跡の内容を後世に伝えるものとなります。

このように、発掘調査にも様々なケースがありますが、いずれの場合も遺跡にメスを入れることには変わりがありません。発掘調査がおこなわれた遺跡は二度と元に戻らないですから、より慎重な発掘調査をおこなう必要があります。

現在、県内では当センターや市町村教育委員会、大学の考古学研究室などが実施している発掘調査が毎年数十件ありますので、機会があれば発掘調査現場に足を運んでみてください。

県内の発掘調査情報に関しては以下にお問い合わせください

- | | | |
|----------------|------|------------------|
| ○沖縄県立埋蔵文化財センター | 調査班 | TEL 098-835-8752 |
| ○沖縄県教育庁文化財課 | 記念物班 | TEL 098-866-2731 |

平成 23 年度発掘調査予定一覧

| 遺跡名・調査名 | 調査目的・原因 | 調査予定期間 |
|------------------|------------------------|--------|
| 県内遺跡詳細分布調査 | 県内各地域の埋蔵文化財分布調査と基礎資料作り | 6月～7月 |
| 円覚寺跡発掘調査 | 史跡整備に伴う遺構確認調査 | 7月～8月 |
| 基地内文化財分布調査 | 基地内に所在する遺跡の把握 | 9月～2月 |
| 首里城公園（中城御殿跡）発掘調査 | 県営首里城公園整備に伴う発掘調査 | 8月～12月 |
| 首里城跡発掘調査 | 国営首里城公園整備に伴う発掘調査 | 9月～1月 |
| 海軍病院建設予定地内発掘調査 | 米軍施設建設工事に伴う発掘調査 | 8月～3月 |
| 宮国元島上方古墓群発掘調査 | 県道改修工事に伴う発掘調査 | 9月 |
| 戦争遺跡詳細確認調査 | 重要な戦争遺跡の詳細な遺構確認調査 | 随時 |

平成 23 年度企画展
「発掘調査速報展 2011」

2011（平成 23）年 7 月 20 日

編集・発行 沖縄県立埋蔵文化財センター
住所 沖縄県中頭郡西原町上原 193-7
電話 098-835-8752
FAX 098-835-8754

沖縄県立埋蔵文化財センター 行事予定のご案内

第46回文化講座：発掘調査速報 2011 その1

7月23日（土）13:30～16:30

- ①県内遺跡詳細分布調査（県内各地）
- ②沖縄県戦争遺跡詳細確認調査（県内各地）
- ③基地内文化財分布調査（宜野湾市）
- ④海軍病院建設予定地内発掘調査（宜野湾市）
- ⑤白保竿根田原洞穴遺跡発掘調査（石垣市）
- ⑥戦争遺跡詳細確認調査

第47回文化講座：発掘調査速報 2011 その2

8月20日（土）13:30～16:15

- ①円覚寺跡発掘調査（那覇市）
- ②首里城跡発掘調査（那覇市）
- ③中城御殿跡発掘調査（那覇市）
- ④喜田盛遺跡発掘調査（石垣市）

企画展：沖縄いしの考古学

10月18日（火）～11月20日（土）

第48回文化講座：縄文人の世界

10月22日（土）14:00～16:15

講師：小林 達雄（國學院大學名誉教授）



〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原 193-7

TEL (代農) 098-835-8751

FAX 098-835-8754

URL <http://www.maizou-okinawa.gr.jp>

開所時間：午前9時～午後5時（入所は午後4時30分まで）

休 所：毎週月曜日・年末年始（12月28日～1月4日）

国民の祝日（子供の日・文化の日を除く）

慰霊の日（6月23日）

※祝日と月曜日が重なった時は、翌日の火曜日も休所
その他臨時休所あり

